

シンガポール通貨庁



シンガポール金融街



シンガポール通貨庁本店

シンガポールは2005年8月に建国40周年を迎えました。国旗に輝く白い三日月は、前進する若い国であることを、5つの星は、民主、平和、進歩、公正、平等を表します。「獅子の都（シンガプーラ）」という名のとおり、力強い活気にあふれた国です。

シンガポールは、外国為替取引を中心とした国際的な金融市場を有し、東京、香港、上海と共にアジアの金融センターとして発展してきました。その発展の中心的役割を担っているのが、シンガポール通貨庁です。

シンガポール通貨庁は、1971年1月1日、シンガポールの中央銀行として設立されました。現在の職員数は約1000名、本店以外にはニュ

ーヨークとロンドンに事務所があります。同庁は、シンガポールにおけるインフレなき経済発展の実現と、健全で革新的なアジアの金融センターの育成を目的とし、通貨・金融政策から金融機関の規制監督に至るまで広範囲の業務を担当しています。特に金融機関の規制監督については、保険、証券、金融先物など幅広い業態を対象としていることが特徴です。

また、シンガポール通貨庁は、国際金融面の環境の変化に迅速に対応すべく、海外とのコミュニケーションを重視していることでも有名です。1998年には「国際顧問委員会」という日米欧等の民間金融機関の代表者から構成される顧問団を新設し、現在はその議長をシンガポール

通貨庁の副長官が務めています。同委員会は、シンガポールにおける金融改革に関する戦略的アドバイスをシンガポール通貨庁に対し行っています。

シンガポールは2002年11月に発効した「日本・シンガポール新時代経済連携協定」により、日本にとって初めての経済連携協定の相手となった国でもあります。この協定は、貿易・投資のみならず、金融、情報通信、人材育成といった分野も含む包括的な二国間の連携を目指しています。日本銀行とシンガポール通貨庁も、東アジア・オセアニア中央銀行役員会議（EMEAP）のメンバーとして、国際会議やセミナーを通して交流を深めています。